

平成24年度 学校評価総括表				奈良県立巻ケケ丘高等学校				
教育目標		自己啓発に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。			総合評価			
運営方針		日々の学習活動を大切に生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成する。						
平成23年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標					
規範意識の醸成とマナーの向上は、定着してきた。部活動や委員会活動にも積極的に参加する生徒が多い。今後はチャレンジ精神をもち、主体的に活動する生徒の育成が求められる。学習面においても、家庭学習など主体的に取り組む姿勢が求められる。また、授業の質の向上をめざし、さらに研修を進めたい。		チャレンジ精神の育成 主体的に学ぶ力の育成	生徒による自主的な行事運営の推進。部活動加入率のさらなる向上。各種資格試験への挑戦。進路実現への早期からの取り組み。 各教科、総合学習、甲等を通して、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。新学習指導要領の完全実施に向けた教育課程の策定。授業公開、相互の授業観察を活用した授業改善に取り組む。 規範意識の醸成とマナーの向上。責任感、協調性、行動力を身につけさせる。学校、クラス、個人スローガンの設定、実践。 目標の達成状況や課題を共有化、焦点化して、課題解決に向けた研修を実施。家庭や関係機関等、学校関係者との連携強化と相互理解。学校評価を活用した全職員による学校運営への参画。					
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
教育活動全般 学校の組織力・教育力	課題を共有化、焦点化して、課題解決に向けた研修を実施	課題別の職員研修を充実させ、学校における諸課題の共有を図る。 特別支援に関する職員研修を行う。	2 3	3	○分業、学年及び担任間の連携を目指して学年主任者会等での開催をしたが、学校の諸課題を十分共有することができなかった。学校評価委員会をさらに活性化させ、それぞれの課題を共有していきたい。 ○特別支援教育に関する研修会を実施するとともに特別支援教育推進委員会を開催し、多様な生徒への対応について共通理解を図った。 ○ホームベージュの改善、オープンスクールや進路説明会の充実によって学校の情報を発信することができた。また、そのスタッフとして参加した生徒にとっても、高校生の意見を促す場となった。 ○平成25年度入学生の教育課程を編成することができた。 ○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	家庭や関係機関等、学校関係者との連携強化と相互理解	各種調査を活用し情報収集するとともにホームページ、学校案内誌、オープンスクール等を通じて積極的に情報発信を行う。 青年会や各種団体と緊密な連携・協力を図る。	4 3	4	○家庭や関係機関との連携を強化し、多様な生徒への対応について共通理解を図った。 ○ホームベージュの改善、オープンスクールや進路説明会の充実によって学校の情報を発信することができた。また、そのスタッフとして参加した生徒にとっても、高校生の意見を促す場となった。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	教育課程の編成と学校行事の検討	平成25年度の教育課程を編成する。本校に適した選択授業の設定、見直し、研究を進める。 授業時間を確保するために、行事予定の検討を進める。	3 3	4	○ホームベージュの改善、オープンスクールや進路説明会の充実によって学校の情報を発信することができた。また、そのスタッフとして参加した生徒にとっても、高校生の意見を促す場となった。 ○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	学校評価を活用した全職員による学校運営への参画	学校評価委員会の活性化を図る。	2	2	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	授業公開、相互の授業観察を活用した授業改善	授業アンケート等の有効活用を図る。教員相互の授業観察が進むよう工夫する。	2	2	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	教育環境の整備	生徒が意欲的・積極的に学校生活を送るために、予算を適正に執行し、学習環境の整備に努める。	3	3	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
学習活動・進路実現	家庭学習の充実	課題の提出や小テストを工夫するなど学習を定着させる取組を一層進める。 3年間を通じての学習状況の推移や、家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。	3 3	3	○授業の様子では、大半の生徒が授業に前向きに取り組んでいるが、家庭での学習時間は短く、自発的、計画的に学習に取り組んでいるとは言えない。今後もきめ細かい指導が必要である。 ○生徒の進路に対する意識は学年が進むにつれて明確にはなっているが、取り組み始めるのが遅い。生徒及び保護者への情報提供とともに、多様な方法で啓発していきたい。	○各教科や学年で効果を上げて、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○進路指導について、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。
	進路実現への早期からの取り組み	進路指導室をより多くの生徒が活用するために、環境や資料などを整える。 保護者への進路情報の提供を積極的に行う。	2 3	3	○授業の様子では、大半の生徒が授業に前向きに取り組んでいるが、家庭での学習時間は短く、自発的、計画的に学習に取り組んでいるとは言えない。今後もきめ細かい指導が必要である。 ○生徒の進路に対する意識は学年が進むにつれて明確にはなっているが、取り組み始めるのが遅い。生徒及び保護者への情報提供とともに、多様な方法で啓発していきたい。	○各教科や学年で効果を上げて、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○進路指導について、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。
	キャリア教育の充実	ボケーションマガジンスや出張講義の内容を検討し、一層充実させる。	3	3	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
基本的な生活習慣の確立	規範意識の醸成とマナーの向上	週3回の校門、通学路指導および月3回のターミナル、バス乗車指導を行う。 生徒の生活委員会による標語、ポスターの制作と掲示、マナー向上の啓発活動を行う。 様々な機会を利用して各学年段階に応じた自覚を持たせる。	4 4 3	4	○全体に落ち着いた雰囲気と生活ができる。『日常の何気ない生活』の中で生徒とのコミュニケーション作りを大切にし、差別防止、生活・服装・通学マナー等の向上を図りたい。 ○人権教育部と生徒指導部が連携し、参加型体験学習やろう学校との交流などを実施した。	○啓発活動がマンネリにならないように工夫する。 ○参加型学習を今後の人権教育に活用していきたい。 ○ろう学校との交流などをより多く生徒の参加するようしていきたい。	○進路指導について、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。
	生徒理解に努める	人権・生徒HRの充実を図る。	3	3	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	心身の健全な発達をめざす	アンケート「おしえてください」を活用し、面接週間の充実を図る。 生徒が自己の心身の状態を正確に把握し、健康の増進と体力の向上についての正しい知識を身につけさせる。	3 3	3	○先に授業時間の確保、内容の充実のための工夫が課題である。	○学年会議の定例化や分掌間の情報交換を推進する。 ○特別支援教育に関して、教職員個々の理解を深めるとともに、課題を抱える生徒に対して全体で共通理解する機会を、研修の機会をもつ。 ○更新するホームベージュの担当を推進する。中学生やその保護者の本校に期待することについて、さらに情報の収集に努める。 ○教育課程については、さらに検討を続ける。特に、授業内容の充実のために、研修機会を増やす。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	生徒による自主的な活動の推進	生徒の各種委員会を活用し、生徒の自主的な活動を支援する。 ボランティアなどの体験活動の機会を提供する。	4 3	4	○学校行事やHR活動に、生徒が積極的に取り組む姿勢が見られた。リーダー研修会等の成果もあり、学校行事や『自転車マナーアップ隊』の中心となって生徒も活動した。通学路清掃など、地域との交流にも貢献した。 ○進路実現に向けた研修を実施。家庭や関係機関等、学校関係者との連携強化と相互理解。学校評価を活用した全職員による学校運営への参画。	○学校行事等において、生徒会を中心としてさらに多くの生徒をスタッフとして活動する機会を増やしたい。 ○生徒の部活動への積極的な参加をいろいろな機会に促す。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	
	「道徳教育実践事業」の定着	学校、クラス、個人スローガンの設定、実践による意識向上を図る。 部活動への参加状況について、きめ細かく観察や助言を行う。	4 3	4	○進路実現に向けた研修を実施。家庭や関係機関等、学校関係者との連携強化と相互理解。学校評価を活用した全職員による学校運営への参画。	○進路指導について、生徒の学習への取り組みを全体で共有する。 ○家庭での学習状況を適切に把握し、指導に活かす。 ○分掌間の連携により、各種課題に取り組むとともにキヤリア教育の推進に努める。 ○生徒の利用推進のために、進路指導室の在り方について検討す。	○学校の自己評価結果及び、今後の改善方策に対しては、さらに以下の項目において、「適切」「だいたい適切」との評価を得た。	

評価基準 4:達成度90%以上 3:達成度70%以上 2:達成度50%以上 1:達成度50%未満